

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2022年
1月9日
第127号



ジャノヒゲ (キジカクシ科)

園内の池の横と資材置き場の2ヶ所で鉢に植栽されており、今、綺麗なコバルトブルーの果実が見られます。この果実には弾力があるため、ハズミダマという名で、かつての子供たちがよく遊んでいました。日本、中国、朝鮮半島からフィリピンに分布する多年草です。日陰でもよく育ち、庭などの植え込みに栽培されています。ヤブランに似ますが、葉が線形で細く、穂状で白色から淡緑色の花が夏に咲きます。線形の葉を想像上の動物の竜のヒゲに例え、リュウノヒゲという別名もあります。かつてはユリ科に分類されていましたが、昨年、改訂された日本薬局方でも古いままとなっています。根の所々に肥大部分があり、この部分が生薬、麦門冬(バクモンドウ)となり、養陰生津、潤肺止咳の薬能で、麦門冬湯、清肺湯、炙甘草湯、清心蓮子飲などの漢方処方に配剤されます。

ヤバネヒイラギモチ (モチノキ科)

園内、温室の裏、山崎川沿いの歩道からも覗ける位置に、赤い果実を沢山つけています。中国原産、雌雄異株の常緑高木で、別名をシナヒイラギと呼びます。葉にヒイラギのような棘があることから命名されましたが、ヒイラギはモクセイ科に属し、全く別の植物です。本来のクリスマスホーリーの材料であるセイヨウヒイラギに似ているので、日本ではその代用品としてよく使われます。棘のある葉と赤い実から、キリスト教ではキリスト受難の血と苦悩を表すとされ、魔よけを目的に使用されます。中医学では、葉から清熱薬である枸骨葉、果実から固渋薬である枸骨子、根から補腎薬である枸骨根となりますが、日本の漢方医学では使用されません。